

N O R C ニ ュ ー ス

社団法人 日本外洋帆走協会

NORCニュースの刊行が大変遅くなりまして盛り沢山の記事を並べましたことをお詫びしますが最後までお目通しの程をお願いします。

会員各位におかれては、ますますお元気で帆走技術の向上にご精進の程感銘の至りです。季節ともなりましたので、海上の賑いも一段と増し、大型船の航海も輻輳してきましたことでもあり、海事当局よりも航海の安全を強調してきておりますので充分にご留意願います。

当協会の登録艇並びに会員も関東支部を筆頭に各支部とも著しく増加してきましたことは偏に会員各位の御協力によるものと存じます。

お 知 ら せ

本年度の計画に基いて、目下準備しておりますものをお知らせいたします。その節は万障お繰り合せの上御出席、御参加下さつて親交を温め乍ら潮気談議に過して頂きたいと念じております。

1. 才1回八丈島レース経過報告会(既報)

日 時 昭和42.6.9(金)18:00

ところ 日本船舶クラブ会議室(虎の門)

演 題 1.各参加艇長による経過報告

2.その他

2. 1967年度講演会(既報)

日 時 昭和42.6.22(木)18:00

ところ 日本船舶クラブ会議室(虎の門)

演 題 1.巨大船とヨット 日本海事広報協会 常務理事 今 井 金 矢

2.外洋ヨットの航行 東京商船大学教授 上 坂 太 郎

3. 1967年(上半期)レース入賞艇表彰式及び懇親会

日 時 昭和42.7.16(日)13:00

ところ 江の島ヨットクラブ

会費 500(1名につき)

◎表彰式終了後直ちに懇親会に移ります。

4. クルーザー海洋教室 (海事普及委員会担当)

オ1次 座談会

日時 昭和42.8.23(水)18:00

ところ 日本船舶クラブ会議室

オ2次 クルーザー試乗会

日時 昭和42.8.27(日)08:00~16:00

ところ 三崎、城ヶ島周辺巡航

(油壺集合)

(備考) 一般愛好者及び海洋少年団員の希望者を対象として開講します。会費は5,000(オ1.2次合計)徴収します。試乗艇提供を願へるオーナーの申し出をお待ちします。

☑ 第4回通常総会の終了報告

既報のとおり、又会員各位ご多用のところ奮つてご出席いただき終始なごやかな雰囲気のもと、慎重にご審議いただきオ1号議案よりオ5号議案まで異議なく承認されましたことをご報告いたします。

会員数 704名 出席者数 280名 委任状 106名

各地支部よりご出席の各位には深甚なる敬意を表します。なお、承認議案の内、特記事項としましては、

- (1) 西内海支部結成については現地広島より田中敬一氏が出席され詳細な資料の提出と説明により、満場一致にて結成に賛意が表明されました。
- (2) 外洋レース及び安全規則の制定を計り、今年度は関東支部において実施、他支部においては研究のうえ実施する方向に進み、43年には各支部統一実施とする。
- (3) 計測規則については関東支部にて統一して行う。
- (4) 脱会者の艇はクラブパーチとエンサインの掲揚は禁止する。セール番号はそのまゝの使用でも差し支えない。

以上

☒ 関東支部総会終了報告

才4回通常総会終了に引続き開催いたし、才1号議案より才4号議案まで異議なく承認されました。
承認議案の内特記事項としましては、

- (1) 計測、安全及びレース各委員会にてそれぞれ各分野に囑する1967規則の制定
- (2) レース委員会提案の「八丈島レース」「大島回航レース」「シリーズカップレース」等の新規実施、従来のレース旗を廃止して下図のレース旗を制定



(頒布価格 500)

- (3) 計測委員会提案による計測証明書(計測委員長署名)の発行、RORC計測法の習得(今夏 小林和夫氏英国出張の折習得依頼の予定)

以上

☒ 第9回理事会終了報告

才4回通常総会開催当日同所にて11:00より下記理事出席のもとに開催、審議の結果異議なく承認された。

関谷会長、古屋、秋田、飯島、則武、横山、渡辺、舛山、大儀見、関根、角田、大橋、丹羽、井上 各理事

議案

- 才1号 昭和41年度事業報告及び42年度事業計画の承認を求める件
- 才2号 昭和41年度収支決算書及び42年度収支予算の承認を求める件
- 才3号 資産の変更(登記事項の変更)
- 才4号 西内海支部の結成承認の件
- 才5号 その他
 - (1) 新入会員の入会承認
 - (2) 著しく会費の納入を怠った会員の除名承認

(3) NORCレース旗制定に関する件

☒ 練習船海王丸便乗終了について

才1回は日本丸、今回は海王丸と航海訓練所の特別のお計いで去る3月1日～3日に亘つて実施しました。飯島専務理事を団長に、井上京都支部長が総監督となつて同志28名、参加者一同貴重な体験を修められて無事下船しました。

数々のご指導を賜つた海王丸の教官始め関係者ご一同に厚くお礼申し上げます。

☒ 各委員会よりの報告

1. 総務委員会

常任委員会の開催

才13回……昭和41.1.2.6(火)18:30 出席者 17名

議 題

1. 才4回小網代カップレースの終了に伴う諸報告
2. 各委員会の実施事項および来年度の実施計画について
3. そ の 他

昭和42年度

才1回……昭和42.1.2.5(水)18:30

議 題

1. 才4回総会資料、招集準備について各委員会よりの発表
2. 西内海支部結成について
3. そ の 他

才2回……昭和42.2.1.5(水)18:00 出席者 15名

議 題

1. 1967年安全規則の検討、審議
2. 1967年計測規則の検討、審議
3. 1967年レース規則の検討、審議
4. そ の 他

才3回……昭和42.3.1.5(水)18:00 出席者 17名

議 題

1. 才9回理事会及び才4回通常総会終了に伴う経過報告
2. 海王丸乗船実習訓練の終了について
3. 初島レース(4/1~2)開催に伴う帆走指示書等の審議
4. その他

才4回………昭和42.4.5(水)18:30 出席者 14名

1. 「才1回初島レース」終了に伴う経過報告
2. 「八丈島レース」開催について
 - A. 帆走指示書
 - B. 歓送会及び前夜祭
 - C. 特別安全装備品
 - D. その他

才5回………昭和42.5.17(水)18:30 出席者 15名

議 題

1. 「才1回八丈島レース」終了に伴う経過報告
2. 「才1回大島廻航レース」 " " "
3. 「才17回大島レース」(5/27~8)の開催について
4. 横浜フリートの近況について
5. その他
 - A) 20呎未満の舟艇登録申請に対する措置
 - B) その他

3. 安全委員会

安全規則の制定に伴い下記のとおり安全検査委員会を開催し、規則条文と実地検査との格差等及び「八丈島レース」の装備等について討議した。才1回42.2.8、才2回42.3.17

安全規則一般規程才5条才3項による検査日は下記のとおりに決定しました。

4/9 5/7 5/21 6/4 6/18

なお、安全規則を熟読されて受験に万全を期する様特に要望します。

3. 計測委員会

計測規則制定により委員会としては下記のとおり集会を開き実施に万全を期する様討議しま

した。目下「計測手引き」上梓中ですから近々会員各位のお手許に届きますから、ご精読を願います。

委員会開催日～1月10日、2月8日、4月6日

なお、本年度の計測実施日は下記のとおりに決定しました。

4月9日 5月21日 6月4日、18日 7月2日、16日
8月6日、27日 9月10日、24日 10月8日、15日
11月5日、19日 12月3日

注～・印は予備日

4. レース委員会

本年度計画のレースは無事相次いで終了しております。経過報告、成績表及び会計報告等は後述のとおりです。

なお、前号(才12号)にて報告未済の才4回小網代カップレース報告書も記載します。

- A) 才1回初島レース
- B) 才1回大島廻航レース
- C) 才1回八丈島レース
- D) 才4回小網代カップレース(1966年度開催済)

1967年度第1回初島レース報告

レース帆走委員長 稲 富 敬

1. スタート:

昭和42年4月1日(土) 20:00

2. コース:

小網代—初島(反)—小網代 約48浬

3. 出走艇 19隻 参加人員98名

4. 天候 NEを中心とした微風

5. レース経過

初島までの往航は微風の追手。復航は殆どポートタックの上りのレースであつた。

別表の成績表に見られるとおり、4月2日の午前4時5分から40分にかけて殆どの艇が初島に到着した。

ファーストホームした最大艇ミスサンバードは初島に午前4時5分に1位で到着しているが、修正時間では小型艇に1時間近く、リードされている。

即ち往航追手の順位は、1位・クロニヤ、2位・シャークX、3位・潮、4位・高麗、5位・ミューズ等の小型艇が上位を占めている。

逆に復航のクローズ・ホールドでは、1位・さがみII、2位・潮風III、3位・シレナ、4位・トンガ、5位・JOVIAL-5である。

6. レース運営

才2回艇長会議は行わず、運営本部(丸八旅館)に於いて出艇申告を受付けた。

レース海域を終始警備して下さつた下田海上保安部げんかい乗組の方々、並に関係海上保安庁の皆様へ厚く御礼申し上げます。

以上

1967年第1回大島廻航レース報告書

レース帆走委員長 関 根 久

1. 参加申込 17隻、出走 13隻、参加人員 62名、会員 51名、非会員 11名。
2. 艇長会議で申し入れたこと
 - (1) 才2回の艇長会議は行なわない。
 - (2) スタートラインに到着した艇は確認のためロータスに連絡のこと。
3. スタート時の天候 NE風力1~2 曇
4. レース前にロータスに艇名を告げたのは"竜王丸" "オリンパスII"の2艇のみ
5. レース運営上必要と思ひスタート15分前にロータスよりサーチライトで1隻づつ確認していた処、1レース艇より"サーチライトを消せ"との罵声あり、レースの安全の為ベストを尽しているのに大変残念であり不愉快であつた。帆走委員の任務を妨害するような行為は今後ないよう、全出場艇にお願いしたい。
6. レース経過

N-NE、風力1-4、時々視界悪く後半雨があるも大体順調。大島迄は追手で直行、帰路時折の凼になやまされるも、トップ艇が約24時間で入り、その後1時間30分の間に11隻がフィニッシュした。サルモンIIは少しおくれ、ジュンブライドはトップに遅れること8時間、唯1

隻の遅れのために保安部として心配されたいが、大島を廻つて来れば普通でも5~10時間の差は出る筈である旨を連絡諒解を得た。

7日 09:10 ラスト艇フィニッシュしてレースを無事終了した。

7. 保安部との連絡

5日 20:00 出艇申告終了を連絡

6日 01:45 13艇スタートしたこと、天候を報告

次の連絡は当方より12:00行なうことを申入れる。それから当直をたてることを報告。

05:00 スタートした報告がないと保安部より電話あり。

06:00 電話してみたが前回の報告の繰返しのみ。

12:00 現在の処異常ないらしいことを報告

レース艇入港する迄連絡不要と云われる。

7日 01:30 3隻フィニッシュを連絡

02:30 12隻フィニッシュを連絡

06:00 ジュンブライドの消息を問合わせあり

09:30 全艇フィニッシュを連絡

09:45 レース終了を報告。ジュンブライドの遅れた理由を調査してくれとの事。

10:30 何等大きな事故のなかつたことを報告。

以 上

8. 航跡図チェックした処、帆走委員の方から依頼した1時間毎の位置記入が少なかつた。1位の"ケロニア"2位の"オリンパスII"は航跡図も正確であり定時の位置記入もあり、真面目なレース態度がはつきりと読みとれてNORCの堅実な進歩を感じさせてくれた。

9. 次のレースの反省

1. 申込はNORC本部へ行つてほしい
2. 艇長会議で帆走委員からの説明をよく聞くこと
3. 帆走指示書をよく読んでレースに出ること
4. 出場艇は、艇の整備を万全にして安全に走つてほしい

第1回八丈島レース帆走委員会報告

八丈島レース帆走委員会委員長 大儀見 薫

今回の八丈島レースは、日本における初の本格的な外洋レースとして、初めてクラスⅢ以上の艇のみを対象として、RORCあるいはRCAの外洋レースの規準に準じて行なわれたので、様々の新しい問題にもぶつかり、かつ解決しなければならない多くの課題もあった。

まづこの報告のはじめに理事会、関東支部常任委員会、特に安全委員会、レース委員会、現地設営の東海支部ならびに八丈島レース帆走委員会に名を連らねた諸兄の激励と援助がなければ、今回ほどスムーズに、かつ短期間にレースを成功させることは至難のことであり、こういったNORCの全体としてのバックアップによって初めて成功することができたことを記して感謝したい。

〔 歓送会 〕

4月23日に江の島ヨットクラブで行なわれた歓送会は次のような目的で企画された。

1. 初の本格的な外洋レースとして、ヨット仲間全体でこの壮挙を祝し、レース参加者を激励し、景気をつける場を持つこと。

2. 色々な意味で関係官庁、報道関係者の間では注目されるレースとなると思われたので、事前にNORCがこのレースを主催することについて充分主旨を徹底させ、かつ取材の機会を作ること。

この主旨に基いて、海上保安庁、日本ヨット協会、神奈川県、江の島ヨットクラブ、新聞及び雑誌の編集者、運動部長等に案内状が送られた(計 52名)。

当日は各方面の招待者を含め、NORC関東支部の会員を中心に160名から170名位が集まり、大変盛大な催しとなった。報道関係者の出席は少なく、2〜3名程度であったが、本部及び当日会場への電話による問合せもいくつかあり、一定のPRにはなったと思われる。

なれない催しなので、どうなるのかと事前に取り越し苦労の心配もあったのだが、総務委員の名和さん、飾り付けの写真提供の伊橋さん、江の島ヨットクラブの藤村さんその他多くのメンバーの力によって予期以上の成果を得ることができたと思う。

なお、歓送会の前にレース出場艇のクルーを対象に馬場さんに八丈島レースについての気象の話をして頂いた。各艇供最低一名は出席し、結果的にはレース中非常にめぐまれた気象状況になり、気象の点では高気圧の張り出しによる無風がむしろ心配になるような状態だったが、4月末から5月初めにかけこの本州南岸で予想されるいくつかの気象の形についての具体的な説明は大変参考になった。

〔 前夜祭 〕

例年の鳥羽パールレースで大変お世話になっている御木本真珠島の方々に今回も大変便宜をはかっていただいた。いそがしい観光シーズンのド真ん中にあれだけ面倒を見ていただいたことを深く感謝したい。

鳥羽レースの名物、飯島さん一流の参加艇紹介が聞かれなかったのは残念だったが、鳥羽保安部長、鳥羽市助役、地元の報道関係者多数が参加して、いよいよ本番前夜の緊張感があったが、「よし、いっちょやるぞ」「がんばってこい」といった調子の壮行会としては最高のムードだった。

回航途中、潮風Ⅲがシャフトごとプロペラを相模湾の海底に落としてしまったため、遂に参加できず、参加艇は結局、＜ミス・サンバード＞、＜マイグレーター＞ チタⅡ、さがみⅡと＜チルデ＞5艇となった。

出場人員は＜ミス・サンバード＞の13名を筆頭に、最少限の4名の＜チルデ＞まで、5艇で計38名、全体としては非常に若いグループとなり、現在までどちらかというところJOG中心のNORCが初めて取り上げるクラスⅢ以上の本格的な外洋レースとして、クルーの面でも新しい有能な若手グループが養生されてきていることを感じさせた。なおスタート前に現地設営でいろいろ努力して頂いた名古屋の鈴木さんより激励の電報が届いた。

〔艇長会議〕

前夜祭の前に行なわれた艇長会議では次のことが行なわれた。

1. 帆走指示書によるSOS自動発信機等の特別備品について各艇長の確認をとること。
2. 鳥羽より海上保安庁の巡視船「はまちどり」が伊良古水道を各艇が出るまで附くこと、八丈島付近では巡視船は出ないが、横須賀保安本部より、途中飛行機による確認はする予定のことを伝達。
3. 4月27日に東京に帰港した、測量船「海洋」による最新の黒潮情報についての説明、4月初めには潮岬からほぼ一直線に御蔵島あたりを中心として流れていた黒潮が4月中旬には、やや蛇行する形で、潮岬から少し南に下がってから北東流して、御蔵島を中心に房総沖に抜けていること、中心流速はきわめて速く、4Ktから3Ktぐらいあること。中心部では表面水温が23ぐらいあり、ほぼ19°ぐらいのところを境として、かなり明確に黒潮が確認できること、大玉崎の南の北時計廻りの1Ktぐらいの逆流があること等を説明。
4. RORCでTCFとともに、レースによっては使用しているレーティングに基づくBasic Speed Factor (BSF) について説明。各艇のレーティングを基準にして、経験に基づいて割り出された方程式によるその艇の推定平均航行速力のことであるが、特定の距離のレースコースを走るに要する推定所要時間をこれによって算出し、OCAで広く採用されているタイムアロウンス方式によるハンディキャップを計算するのに用いられる。今度の305浬の八丈島レースの場合下表のようになり、トップのミス・サンバードのBSFは621.2秒、つまり、1浬走るのに10分

21秒を要することになり、平均推定速力は6ktを少し下廻る程度ということになる。これで305哩のコースを廻ると52時間37分、5月3日1200のスタートで城ヶ島フィニッシュが、5月5日1637頃と計算される。

このBSFによる推定所要時間は、レース運営上の問題として、レース艇の実際の所要時間を予測するための、かなり確実な根拠となるので大変便利である。それから、参加各艇にとっても、各艇間の大雑束な時間のハンディキャップがわかるので、レース途中で各自の成績を予測する1つの目度にもなるので便利である。

[レース経過]

本州南方海上を東に通過中だった低気圧と、それらをつなぐ前線が南に押しやられ、スタート当日の鳥羽は快晴、朝からスタート時の昼すぎまでEの微風という「行楽日より」であり、レースは南に押し出された前線の後を追って、大陸から接近中の高気圧に追いつかれる前にフィニッシュできるかという、高気圧とのレースになるのではないかと思われた。

真珠島沖1100に鳥羽レースの例にならって仮スタート。全艇機帆走でどうやらそろってカメラに収まるよう苦労する。

5月3日1200、ヨセマル灯浮標とコミッティボートを結ぶ線がスタートライン。ヨセマルのブイは後ろにウエーキを残している。強い潮が沖からW方向に流れており、スタートを切るレース艇を真正面から押し込む形になっている。風も真向いで、Eで2mぐらいしかない。

トップのスタートは<マイグレーター>、潮を計算した細い作戦でうまく下手からでる。

スタート後は<チタII>と<さがみII>が南のコース、岸寄りをタックしながら南下し、スタート後30分ぐらいで、逆のタックで東進した他の艇に大きく水をあける。<チルデ>、<ミスサンバード>は、伊勢湾に流入する潮の最強時(11:32)に、これに押しもどされる不利を避けるためか、しばらくして反転して南にタック、<チタII>、<さがみII>を追う。<マイグレーター>だけが、転流後の伊勢湾からの南東方への強い押し出しを利用するため、さらに東進を続ける。

スタート後、風は南に振れ、風力も強し、5~6Mぐらいになり、日没前にはさらにSWに振れて、6~7mぐらいの手頃な風になったようである。この風はレース艇が八丈付近に到達するまで、WSWにまで振れながら続いたようで、スタート後24時間、4日の正午にはトップの<ミスサンバード>が八丈を大きく離して廻るコースを引き、八丈のS5~6哩の所に到達するという非常に早いペースのレースになった。スタート後24時間の推定走行距離は、<ミス・サンバード>の166哩をはじめ各艇とも140~150哩であり、八丈の西で強い黒潮の本流に乗ったことも手つだって、

平均6ノットの速いペースとをつた。

黒潮をねらって<チルデ>が大きく南に落したコースを引いたが、走行距離が延びたわりには、潮によるプラスは大きくなかったようである。潮岬から黒潮が北には上らず、ほとんどEに流れ、どちらかという、少し南に振れてから北東流して、御蔵島あたりにつっかけていたため、鳥羽からコースを南に下げても、黒潮の影響を受けるようになるまでには、かなり走らなければならなかったのではないかと思われる。

4日の昼前後には風も弱まり、八丈島の東岸から南岸にかけて時計廻りの潮があり、レース艇の頭を押える形になったので、廻航は大変時間がかかり、再スタートに近い形になってしまった。とくにトップで八丈に取りついた<ミス・サンバード>はスピンのトラブルと、八丈を南に大きく廻るコースを引いたことがマイナスとなり、大きなリードをここで失ってしまった。

大島廻航後は4日の夜になって風がN Eの方向から安定して吹くようになり、上り一本で伊豆諸島の東を北上する形となった。

レースの勝負はここでついたわけだが、優勝艇<チタII>の、この上りコースでの快走ぶりが目立つ。廻航後フィニッシュまで<チタII>ははるかに大きい<ミス・サンバード>とほとんど同じペースで同艇をピッタリマークして130哩以上の上りを走ったわけだ。ここでも平均5ノット以上のペースを出したことになる。

トップで八丈を廻った<チタII>に約3時間半遅れて、お互いに5分差で石積の鼻を廻った<さがみII>と<チルデ>は、レーティングもほとんど変わらず、これまたフィニッシュまで着かず離れずの大接戦をやり、大島付近までは大健闘したのだが、ここで、ついに高気圧につかまってしまう、廻航後の上りで遅れた<マイグレーター>とともに微風にやまされながら、ラストスパートができず先行艇をつかまえることができなかった。

トップグループの<ミス・サンバード>と<チタII>が5日18時過ぎに城ヶ島でフィニッシュした時に、後続の3艇は波浮の線にやっと到達したばかりであった。相模湾では日中南寄りの風が吹き、先行2艇がこれをつかんで、一気に城ヶ島沖までつめたのだが、後続艇は18時頃から、また吹きだしたN Eの風をつかんでからのフィニッシュとなり、とくに洲の崎の南、一番東寄りのコースを引いた<マイグレーター>は、風も弱く、潮も悪い所に入ってしまう、結局ラストになってしまった。

以上のように、レース中は帰りの上りコースでの黒潮本流と、N Eの風がぶつかるために予想された悪い波も、それほどひどくなかったようである。どの艇も御蔵、三宅の東の海域では相当な波を経験したが、これは明らかに黒潮と風のぶつかりによって生じたものであり、今後のレースでは今回よ

り場合によってはかなり悪い波がたつのではないと思われる。

〔帆走委員会日誌〕

4/29・廻航計画について横須賀保安部に連絡。廻航計画書は1艇が口頭で連絡した以外は全部文書で提出された。

5/2・16:00 横須賀保安部にSOS自動発信機の各艇のコールサインを連絡。同時に潮風Ⅲの参加不能を伝える。〈マイグレーター〉のSOS発信機について、自動のコールサインがないはずはないが、と問合せあり。

5/2・15:00 スタート。出艇申告について鳥羽保安部と連絡。「はまちどり」が伊良古水道を出るまで着くと伝達あり。

5/3・13:30 鳥羽保安部に無事スタートを報告。出艇申告の人員に変更なし。ミス・サンバード13名、マイグレーター8名、〈チタⅡ〉6名、さがみⅡ7名、〈チルデ〉4名、計38名と連絡。

5/4・15:30 横須賀保安部より連絡。1430現在、飛行機で八丈の西に4艇確認、八丈の西7m東からセールナンバー216(チタⅡ)、338(マイグレーター)、367(チルデ)、164(さがみⅡ)、晴、風290°、10Kt、視界7m。非常に早いペースで進んでいるレース艇の状況を知るはじめての手掛りとして、大変貴重であった。

5/5・9:10 〈チタⅡ〉の丹羽婦人より、急用あるのでフィニッシュしたらすぐ帰って来るように伝言たのまれる。「高気圧が張り出して、前線が南に下がってしまったので、タイムリミットが心配」とのこと。さすがヨット乗りの妻ではある。

5/5・9:50 気象協会に八丈・三宅の気象状況問合せ。9:00現在、八丈、雲りENE 5M。三宅NE 10M。昨晚はいづれもNE 2~3M位。

10:00 横須賀保安部より状況問合せ。本日も飛行機を出すとのこと。NEの風なので場合によっては御蔵、三宅の西に出る艇があるかもしれないと伝える。

13:50 気象協会に問合せ。12:00現在八丈 NE 5M、大島 NE 5M。

14:00 横須賀保安部より連絡、飛行機で確認の位置通達。11:35現在、新島北端80°18M 380(ミス・サンバード)、216(チタⅡ)。

11:50 三宅96° 15M 367(チルデ)、164(さがみⅡ)、雲り、風60°15Kt、波3、うねり2、視界10M。

12:45 三宅55° 20M 338(マイグレーター)。全艇無事帆走中。これも大変貴重な情報。これにより大体フィニッシュ時の見当がつく。

15:50 気象協会問合せ。15:00現在、大島W 5~6M, 三宅E 2~3M, 今晚相模湾はSからEで風弱い。

5/5・16:45 城ヶ島灯台博物館屋上より、<ミス・サンバード>、<チタII>を確認。南風にスピンははっているため、かなり離れているがよくわかる。<チタII>の出艇申告書によるとスピンは赤線1本だが、実際は2本。フィニッシュは1800前後か。

17:10 上記のことを横須賀保安部に連絡。

18:06:18 <ミス・サンバード>フィニッシュ。

18:22:35 <チタII>フィニッシュ。

19:50 以上横須賀保安部に連絡。また、<チタII>帰港予定を連絡。22:30出港蒲郡に5月7日までに着く予定。

5/6 02:21:21 <さがみII>フィニッシュ。

02:59:11 <チルデ>フィニッシュ。

03:15 以上横須賀保安部に連絡。このとき、大島廻航レースのスタート後の連絡がなく、帆走委員会と連絡がとれないが、これでは困ると保安部より云われる。翌日、このことを大島廻航レースの帆走委員に連絡、スタート後の連絡は明確にしてあること判明。横須賀保安部内の連絡不十分が原因としか考えられない。

03:39:36 <マイグレーター>フィニッシュ。

03:45 以上横須賀保安部に連絡、協力を感謝。

[レース中の事故]

1) <ミス・サンバード>、スピネットを使用しなかったため、フォアステイ、インナーフォアステイ(カッターリグ)にスピンがからまり、收拾つかなくなり、夜間のことでもあったので、夜明けをまってマストに1人登らせて、結局4時間目に「のりまき」の収容に成功。

2) 同艇ゼノア破損。御蔵の南東約20Mの所で、NEの風が黒潮の本流に真向からぶつかるためか、波が非常に悪く、リーサイドでゼノアが波をしゃくり、フットがライフラインに接触する所で破損。一旦修理したが、また破損、再び修理して続行。

3) <さがみII>スピンハリヤード切断。4日0150波悪く、激しいローリングの中でクレモナのスピンハリヤード切断。その後0530にジブハリヤードでスピンを張ったが、0730黒潮本流の中で波悪く、ジブハリのブロックが開き、使用不能。

4) 同じく<さがみII>、5日0300黒潮で波悪く両色灯が水中に入ったため消灯したが、予

備の両色灯にとりかえて走る。

5) <チルデ>フォアステイのマストトップのスエーピングターミナルが割れる。5日三宅沖クロズホールドで帆走中、フォアステイ2本のため大事に致らず。原因については、割れ口のサビの状況等から、建造当時よりヒビが入っていたのではないかと報告ある。

〔いくつかの問題点〕

1) 天測を含め、全体としてナビゲーションの質の向上をはかり、優れたナビゲーター多数を養成する必要がある。

2) レース艇の掌握について、今回は気象、海象にめぐまれ、保安庁の飛行機による確認があったため問題なかったが、将来帆走委員会の指示のもとに1艇以上にハム(アマチュア無線)を積み、陸上局を指定しウォッチをたてるなどの方法を具体的に考える必要がある。

3) 黒潮、ローカルな海流、潮流などについてできるだけ正確な情報を入手し、不正確なものは極力避けること。

4) SOS自動発信機について。これを推奨備品とすることは、当然のことであるけれど、強制備品とすることを今後も続けるかどうかについては充分検討していただきたい。自動発信機は決して安価な備品ではなく、安全対策の本命は、事故を起さないようにすること、また事故の場合自力でこれを克服することであり、この方面の対策を最重要視し、自動発信機を積める艇は、できるだけ積むようにするとしても、当分は推奨備品とした方が良くはないか。自動発信機を積んでいるから安全対策が万全だというわけでは決してない。

5) コースについて、鳥羽スタートの今回のコースは大変優れているが、関東水域からの廻航の負担、黒潮に対しての上りが鳥羽スタートの場合、全然ないこと等の点から考えると三崎附近からの往復コースの可能性は研究する必要がある。

6) レース運営本部の設定は、レースの時期がいわゆる「ゴールデンウィーク」の連休にかかるので、充分早目に決定する必要がある。

7) 水路部から黒潮の流れについて貴重なデータを提供していただき大変参考になったが、レース終了後報告に行ったところ、われわれのデータも水路部の方で色々参考になる場合もあることが解ったのだが、水温、流速等のデータについては、今後もできるだけ正確なものをレース中に取るように方法等研究する必要がある。

	クラス	レーティング	T C P	B S P	推定所要時 305裡コース	右による各競馬 の時差	八丈レース 実際の所要時間	右による 時差
380	ミス・サンバード	27.86	828	621.2	52:37:46		54:06:18	
338	マイグレート	25.70	802	637.1	53:58:36	1:20:50	63:39:36	9:33:18
216	チタII	23.49	785	655.1	55:30:00	1:31:24 2:52:14	54:22:35	0:12:17
164	さがみII		741	690.0	58:27:03	2:57:03 5:49:17	62:21:21	8:15:03
367	チルデ	19.31	739	695.6	58:59:02	0:31:59 6:21:16	62:59:11	8:52:53

(注) 優勝馬<チタII>のみがBSPによる推定所要時間より早くフィニッシュしている。

1966年第4回小網代カッブレース

報 告 書

恒例11月の小網代カッブレースは大島を時計廻りに廻航するだけの70哩の短いレースとは言え、季節柄NORCの数多いレースの中でも可成りきびしいレースである。18隻の申込艇の顔振れを見ると、流石と思われる面々揃いである。

スタート前夜の25日の晩は猛烈な暴風雨であつた。低気圧が980mに発達しながら日本海を通り抜け、温暖、寒冷前線が通過したのである。レース当日26日の朝は、低気圧は千島に去り、大風は収まつたが、本州南東沖合の別の低気圧に北風が吹き込み、その上大陸に可成り優勢な高気圧が張出して、北西の強い、寒いレースとなりそうな気象配置である。大島、八丈島には強風、波浪注意報が出ている。

申込艇18隻中、出走艇11隻、棄権艇7隻の内3隻が無断欠席であつたが、やはり電話で一言断るのがエチケットであろう。10:00、小網代湾口スタート。湾口では突風気味のNE7~8ノット。外は10ノット以上吹いている。三浦の島蔭を出るともつと強いかも知れぬ。メンをリーフしている艇が多い。亜光はハリヤードトラブルで約10分遅れ、オリンパスIIは、アンカーを小網代底のチェンに引っかけて約30分遅れてスタートラインを切つた。

大島迄は竜王崎を目指して30哩をNEの追手で一直線に突つ走るだけだ。昨日の南の強風にさそわれたのか大島北部は黒潮分流が可成り強く、NEの風が反対にぶつかり合つて波が悪い。

14:35、サルモンIIがトップで竜王崎を廻る之を追つて14:45さがみII、以下シレナ、チルデ、モサIII、マンゴ、くろしおが15:00前後一団となつて大島の南側に廻りこんだ。

この時、シレナはスピンを展開して先行艇との距離を大分つめたが、艇長の自信とクルーの練度には、近くを走つていた仲間はシャツボを抜いたらしい。稲竜も負けずにスピンをあげたが三角波と三原山からのブローにあおられてブローチン、やゝ遅れて15:30廻航した。クラスV唯一隻小粒のオリンパスIIは遅れてスタートした為、他艇の姿を全然見なかつたが、元氣一杯16:20竜王崎を通過した。

竜王崎をかわずと風も波もやゝ楽になつて各艇2時間位で元町沖に達したが、勝負はこれからであつた。

竜王崎迄の水溫計測により黒潮の北東流の分布を知つていたさがみIIは、たくみに順潮のコースを引いて20:00には早くも小網代SW10哩の地点に達していた。シレナ稲竜も同様、黒潮流域の、波の悪い海面を撰んで走り順潮を利用した。サルモンII、くろしお、チルデ等は、伊豆に近

附きすぎ、又相模湾の奥深く突込みすぎ、順潮の恩恵をうけることが少くて勝機を逸した様である。

又モサⅢ、マンボは東京湾口に近附きすぎ、潮と風の角度が悪くなつて遅れをとつたらしい

レースの運びは急テンポで、27日零時6分、稲竜がフィニッシュすると次々とびこんで来て、レース委員はテンテコ舞であつた。

04:30フィニッシュのオリンパスⅡを最後に今年度最後のレースは終つたが、各艇共初冬の
大島近海の豪快なレースに堪能したことと思う。

折から、玄海灘の貨物船、東北の小型漁船、富士山の多数遭難等、海山の非報が相次いたが、本
レースでは当然のことゝは言い乍ら、参加全艇が、自己の責任と判断の上に立つて或る者は棄権し、
出場者は全力を尽して完走し、いささかの危げもなくレースが完了したことは誠によろこばしい。

レース中、四六時、当直警戒の労をとられた横須賀海上保安部、警備救難課の皆様に厚くお礼申
上げます。

レース委員長	渡 辺	修 治
委員	星 護 郎	山 下 精 一
	前 田 勉	鈴 木 康 之
	白 崎 謙 太 郎	池 田 信 一
	加 藤 鶴 喜 知	山 本 憲 生
	渡 辺 康 夫	

(4 1 . 1 2 . 7)

1967年度 才1回初島レース成績表

スタート：昭和42年4月1日(土) 20:00

コース：小網代-初島(反)-小網代

距離：約48哩

帆走委員長 稲 富 敬

級	SAIL NO	NAME OF BOAT	SKIPPER	R	TCF	初島 W		F.T.		E.T.		C T		順位		E T		C T		参加人員
						着順	着順	H.M.S.	H.M.S.	総合	級	往	復	往	復					
II	380	MISS SUNBIRD	杉山博保	27.86	828	1	04.05	①	08.52.15	12.52.15	10.39.25	18	II-2	H.M	H.M.S	順位	H.M.S	順位	H.M.S	12
	358	潮 風 III	竹下政彦	23.42	784	2	04.10	2	09.08.23	13.08.23	10.18.06	12	II-①	08.10	4.47.15	17	6.41.35	⑥	3.57.50	7
III	199	SALMON II	富永 弘		756			7	10.03.05	14.03.05	10.37.22	17	III-4							6
	305	竜 王 丸	奥田広男	20.10	748		04.21	3	09.40.23	13.40.23	10.13.39	9	②	08.21	5.19.23	12	6.14.45	7	3.58.54	5
	164	さがみ II	飯島元次	19.43	741		04.40	5	09.49.19	13.49.19	10.14.31	10	3	08.40	5.09.19	16	6.25.19	①	3.49.12	6
	367	TILDE	J.JANSSEN	19.31	739	19	05.15	19	15.02.15	19.02.15	14.04.07	19	5	09.15	9.47.15	18	6.50.09	18	7.13.58	4
	383	TONGA	P.DRIPS	19.25	739		04.30	4	09.48.44	13.48.44	10.12.26	8	①	08.30	5.18.44	13	6.16.53	④	3.55.33	4
IV	379	MAMBO W	宮野邦重	17.75	721		04.24	11	10.16.26	14.16.26	10.17.29	11	IV-7	08.24	5.52.26	7	6.03.23	13	4.14.06	5
	184	JOVIAL FIVE II	小田達雄	17.69	721		04.32	6	10.00.00	14.00.00	10.05.38	5	4	08.32	5.28.00	11	6.09.09	⑤	3.56.29	5
	381	八 丈	近藤禎之	17.50	718	17	04.45	16	10.46.18	14.46.18	10.36.22	16	10	08.45	6.01.18	14	6.16.57	15	4.19.25	4
	179	SIREWA	大儀見 薫	16.95	712		04.35	8	10.04.25	14.04.25	10.01.13	4	③	08.35	5.29.25	10	6.06.41	③	3.54.32	5
	369	潮	豊泉茂基	16.95	712		04.20	17	10.46.19	14.46.19	10.31.03	14	9	08.20	6.26.19	③	5.56.00	17	4.35.03	4
	366	も さ III	守屋克己	16.82	710		04.28	9	10.04.45	14.04.45	9.59.46	②	①	08.28	5.36.45	⑥	6.00.41	8	3.59.05	4
	374	高 麗	方 栄世	16.73	709		04.25	12	10.17.19	14.17.19	10.07.50	6	5	08.25	5.52.19	④	5.58.03	10	4.09.47	5
	340	SHARK X	森村讓二	16.47	706		04.16	10	10.11.27	14.11.27	10.01.07	③	②	08.16	5.55.27	②	5.50.10	11	4.10.57	4
V	332	MUSE	金原良一	16.45	706		04.30	13	10.21.19	14.21.19	10.08.05	7	6	08.30	5.51.19	⑤	6.00.03	9	4.08.02	5
	319	かまくら	中戸将治	16.44	705		04.40	15	10.42.23	14.42.23	10.22.05	13	8	08.40	6.02.23	9	6.06.36	14	4.15.29	5
	327	OLYMPUS II	落合公平	15.08	688	18	04.50	18	11.22.28	15.22.28	10.34.39	15	V-2	08.50	6.32.28	8	6.04.38	16	4.30.01	4
	321	KELONIA	大谷正彦	14.23	677		04.29	14	10.41.43	14.41.43	9.56.55	①	①	08.29	6.12.43	①	5.44.35	12	4.12.20	4

優勝杯・オリンパス・カップ：クロニヤ ファースト・ホーム：ミス・サンバード

ウイニング・フラッグ : 1位・クロニヤ、2位・もさIII、3位・SHARKX

賞 杯：クラスII・1位・潮風III

クラスIII・1位・トンガ、2位・竜王丸

クラスIV・1位・もさIII、2位・SHARKX、3位・シレナ

クラスV・1位・クロニヤ

計 98名

第一回大島廻航レース成績表

昭和42.5. 6~7

N O R C 関東支部

着順	セーLNo	艇名	オーナー	艇長	T.C.F.	回航時間 (竜王崎)	到着時間 (F.T.)	修正時間 (C.T.)	順位	
									クラス	総合
1	305	竜王丸	奥田広男	馬場邦彦	・748	6日 08:20	7日00.14.07	18.07.41	Ⅲ 2	11
2	383	TONGA	R.L.COOPER	P.A.DRIPS	・739	" 11:00	" 00.15.06	17.55.19	" 1	8
3	179	SIRENA	大儀見 薫	武市 俊	・712	" 09:05	" 00.15.23	17.16.14	Ⅳ 1	3
4	369	潮	豊泉茂基	豊泉茂基	・712	" 09:45	" 00.40.00	17.33.46	" 4	6
5	381	八丈	近藤禎之	近藤禎之	・718	" 10:55	" 00.43.58	17.45.30	" 5	7
6	315	ごんがめⅦ	渡辺修治	渡辺修治	・702	" 09:45	" 00.46.00	17.23.10	" 2	4
7	312	はやとり	名当英臣	名当英臣	・707	" 10:05	" 00.46.35	17.31.01	" 3	5
8	327	OLYMPUSⅡ	落合公平	落合公平	・688	" 10:15	" 00.58.56	17.11.16	Ⅴ 2	2
9	321	KELONIA	西村 真	大谷正彦	・677	" 09:10	" 01.03.24	16.57.48	" 1	1
10	361	AOLELEⅡ	沼口日出士	沼口日出士	・711	" 10:55	" 01.27.40	18.06.10	Ⅳ 7	10
11	319	かまくら	中戸将治	中戸将治	・705	" 09:20	" 01.32.55	18.00.42	" 6	9
12	199	SALMONⅡ	富永 弘	飯島征四郎	・756	" 08:20	" 02.13.09	19.49.18	Ⅲ 3	12
13	334	JUNE BRIDE	鈴木礼三	松延 猛	・694	" 11:45	" 09.10.22	23.01.19	Ⅴ 3	13

優勝杯~KELONIA ファストホーム賞~竜王丸 ウィニングフラグ~(1位)KELONIA

賞杯~(クラスⅢ)TONGA " ~(2位)OLYMPUSⅡ

" ~(クラスⅣ)SIRENA.ごんがめⅦ.はやとり. " ~(3位)SIRENA

" ~(クラスⅤ)KELONIA

第一回八丈島レース成績表

昭和42.5. 3~7

N O R C

着順	セーLNo	艇名	オーナー	艇長	T.C.F.	回航時間 (八丈島)	到着時間 (F.T.)	所要時間 (E.T.)	修正時間 (C.T.)	順位	
										クラス	総合
1	380	MISS SUN BIRD	山崎達光	山崎達光	・828	4日 18.55	5日18.06.18	54.06.18	44.47.56	Ⅱ 2	2
2	216	CHITAⅡ	丹羽由昌	丹羽由昌	・785	" 18.15	" 18.22.35	54.22.35	42.41.07	" 1	1
3	164	さがみⅡ	飯島元次	飯島元次	・741	" 21.35	6日02.21.21	62.21.22	46.12.20	Ⅲ 1	3
4	367	TILDE	J.JANSSEN	J.JANSSEN	・739	" 21.40	" 02.59.11	62.59.11	46.32.49	" 2	4
5	338	MIGRATOR	R.BERKELY	R.BERKELY	・802	" 21.10	" 03.39.36	63.39.36	51.03.19	Ⅱ 3	5

優勝杯~CHITAⅡ ファストホーム賞~MISS SUN BIRD ウィニングフラグ~(1位)CHITAⅡ

賞杯~(クラスⅡ)CHITAⅡ " ~(2位)MISS SUN BIRD

" ~(クラスⅢ)さがみⅡ " ~(3位)さがみⅡ

1967 第1回レース会計報告

(42.5.23)

レース帆走委員長 稲 富 敬

収 入 の 部

参加申込料	22隻	22,000-
参加申込遅延料	6 "	12,000-
参加料(会員)	55名	27,500-
" (一般)	17 "	34,000-
計		95,500-

支 出 の 部

レース本部運営費(宿泊費、食費、交通費)		24,654-
才1回艇長会議借室料		1,750-
コミッテイボート借料		3,000-
通船借料		3,500-
印刷費(帆走指示書、出艇表等)		1,500-
消耗品費(文具、電池等)		6,350-
雑費		2,208-
計		42,962-

差 引 残 額 52,538-

第 1 回大島廻航レース会計報告

(42.5.15)

レース帆走委員長 関 根 久

収 入 の 部

参加申込料	17隻	17,000-
参加申込遅延料	2"	4,000-
参加料(会員)	38"	19,000-
" (一般)	11名	22,000-
計		62,000-

支 出 の 部

レース本部運営費(食費・交通費)		19,200-
才1回艇長会議借室料		2,100-
コミッテイボート借料		12,000-
謝礼金(M.Y.C.三戸浜寮)		4,000-
印刷費(帆走指示書、出艇表、報告書等)		3,200-
記念品代(ワッペン(100個)		
鯉のぼり(1張)		16,650-
雑費		150-
計		57,300-

差 引 残 高

4,700-

第 1 回 八 丈 島 レース 会 計 報 告

(4 2 . 5 . 1 6)

レース帆走委員長 大儀見 薫

収 入 の 部

参加申込料	6隻	6,000-
参加料(会員)	33名	16,500-
江の島歓送会会費	140名	42,000-
鳥羽前夜祭会費	51名	15,300-
計		79,800-

支 出 の 部

レース本部運営費(宿泊費、食費、交通費)		46,575-
才1回艇長会議借室料		1,300-
コミッティーボート借料		15,000-
特設電話及び電話料		14,300-
歓送会会場費(料理共)		39,080-
前夜祭会場費(")		30,000-
謝礼品代(燈台博物館、他1ヶ所)		4,500-
印刷費(帆走指示書案内書等)		7,500-
記念品代(ワッペン80個、鯉のぼり6張)		15,900-
" (参加艇写真)		18,600-
航跡図(チャート) 7枚		2,800-
雑 費		4,660-
計		200,215-

差 引 不 足 額

120,415-

☒ 会員の異動

特別会員より普通会員へ

3413 末延道彦 (BERMUDA)

普通会員より特別会員へ

3428 J. JANSSEN (TILDE)

6602 加藤圭介 (PHOENIX)

6728 TERRANCE E. WIRTA (SEA WITCH)

5025 P. R. GAINÉ (WHITECREST II)

準会員より普通会員へ

6659 村上義雅 (MUSE)

☒ 新登録艇紹介

セーラー№	艇名	RIG	クラス	TCF	LOA×LWL×BXd	オーナー氏名	フリート
380	MISS SUN BIRD	S	II	828		山崎達光	油壺
354	VEGA	"	IV	-		森茂葉	山
300	CHRISTINA	"				福山美晴	油壺
397	KITI	K	III	-	294×236×89×39	BRNEMCOFF	"
196	白鷹	S	IV	-	^m 7.65× ^m 6.43× ^m 2.325× ^m 1.35	道島一夫	江の島
399	浜弥	"	IV	-	7.48×5.90×2.34×1.40	浜野弥一	"
601	SUNRISE	"	IV	-	24.11×20.0×7.6×5.0	池村久雄	油壺
602	桜工	S	IV	-	24.11×20.0×7.6×5.0	柴田義明	小網代
603	TAROH	S	"	-	6.71×5.02×2.06×1.40 ^m	浜尾洋一	江の島
604	OZZ	S	"	-	7.44×6.50×2.31	湯浅明彦	(沼津)
605	祇王	S	"	-	26×20×7.6×4.9	山田晴由	江の島

新入会員紹介(42.1.1~42.5.31)

会員番号	氏名	住所(TEL)	勤務先	フリート	所属艇
	(特別会員)				
7746	福山晴美	東京都港区赤坂8-11-47 (402)2870	(株)福山ピアノ社(293)2981	油壺	CHRISTINA
7747	道嶋一夫	" 港区芝琴平町13 (501)9879	(株)平吉(501)9879	江の島	白鷹
7752	浜野弥一	" 品川区旗の台6-17-24(781)2431	日本ナショナル金銭登録機KK	"	浜 弥
7755	江畑一路	" 品川区南品川5-233	富士銀行丸の内南支店(211)8811	小網代	BERMUDA
7756	池村久雄	" 世田谷区東玉川町67(720)3341	三協海運KK(273)1811	油壺	SUNRISE
7766	柴田義明	" 三鷹市新川807(0422)44-7325	日本大学生産工学部建築科(在学)	小網代	桜 工
7769	浜尾洋一	" 府中市清水丘1-13(0423)61-8048	浜尾商店	江の島	TAROH
7791	湯浅明彦	静岡県沼津市大岡2132-1 太田寮内	東芝機械KK沼津工場 (0559)62-5240	沼津	OZZ
7796	山田晴由	東京都北区王子1-13-3	慶応義塾大学(在学)	江の島	祇 王
	(普通会員)				
7739	山口德行	神奈川県大和市中央6-2-6(0462)61-2245	横浜国立大学工学部造船科(在学)	江の島	SORCIERE
7740	石田順康	東京都杉並区下高井戸1-143 日鋳寮内 (303)7190	日本鋳業KK金属営業課 (582)2111	油壺	八 丈
7741	近江健一	神奈川県鎌倉市小町1-13-5(0467)2-0140	慶応義塾大学(在学)	江の島	MAUPITI
7742	中村舛三	" 横浜市中区相生町6-104 (045)68-0941	中村船具工業KK	-	-
7743	梅野裕二	東京都品川区西大井4-12-5(772)3345	関東電気工業KK (045)44-3236	江の島	EMERADA
7744	縄井松男	" 小平市小川東町2800-1(0423)41-111	ブリヂストンタイヤKK技術本部	油壺	高 麗
7745	伊達正晃	埼玉県所沢市宮本町2-24-13	都立大学工学部電気工学科(在学)	"	"
7748	三浦征幸	東京都中央区越前堀1-10(551)8937	三幸被服KK(551)0562	小網代	飛 車 角
7753	佐々木邦雄	神奈川県横浜市中区西竹之丸13 (045)64-4830	ソニーKK研究所才三研究室 (045)33-8261	油壺	あ か つ き
7754	豊田義昭	東京都中央区日本橋横山町7	豊田洋装品問屋	"	MISS SUN BIRD
7757	仲原正彦	神奈川県藤沢市鶴沼藤ヶ谷3-10 藤沢(22)3818	仲原工務店 藤沢(22)3818	諸磯	NOAH - 12
7758	角田敏和	" 三浦郡葉山町一色1834	自家営業(建築業)	"	"
7759	飯田博	" 横須賀市長瀬1-648	東亜ヨットKK(0468)41-3214	小網代	NADJA II
7760	末次信夫	" " 平作町3686	大洋漁業KKトロール部漁業課 (531)1111	江の島	白鷹
7761	中馬勇	東京都世田谷区下馬町1-329 東電才三軒茶屋寮内 (501)8111	東京電力KK労務部保健課 (501)8111	小網代	KELONIA
7762	伊藤奉充	神奈川県横浜市金沢区六浦町1635		"	飛 車 角
7763	高原猛	" " 磯子区上町9-26 (045)75-5036	アジアマガジンス社(502)0641-3	横浜	TONGA
7764	土肥由夫	東京都世田谷区下馬2-39 旭荘内	舟艇協会出版部(561)7310	油壺	だぼはぜ
7765	辻秀樹	神奈川県三浦郡堀の内797	日本長期信用銀行(211)5111	小網代	飛 車 角
7767	広瀬秀俊	東京都大田区田口調布3-28-1(721)5820	千代田生命保険KK	葉山	BLUEBIRDV
7768	鳥島信吾	" " 矢口1-29-2	黒沢高店テレライター課(571) (571)1683	小網代	飛 車 角
7770	三浦克己	" 世田谷区北沢1-23-17	法政大学工学部(在学)	"	竜 王 丸
7771	船越康男	" 中野区上高田1-1-16(363)4912	(株)桂建設計画匠房(542)4871	"	かまくら
7772	佐々木肇	" 世田谷区松原町2-46-6 (328)7834	金商又一KK	油壺	MISS SUN BIRD
7773	千津井耕造	" 台東区浅草橋3-29-7(851)2630	S B 食品KK(668)0551	"	"
7774	今関秀夫	" 中央区佃1-4-10 今関荘内(531)2476		小網代	TILDE
7775	小沢美弘	" 大田区南馬込4-12-5(771)8098	中央大学(在学)	油壺	MISS SUN BIRD
7776	橋本和夫	埼玉県大宮市大成町3-446	駒沢大学(在学)	"	"

会員番号	氏名	住所 (TEL)	勤務先	フリート	所属艇
	(普通会員)				
7777	藤井邦雄	東京都港区南麻布3-10-11 (473)2543	清水建設KK研究所(535)4111	小網代	KELONIA
7778	中川道雄	" 板橋区中台1-8-11 (933)4453	中央大学(在学)	油壺	MISS SUN BIRD
7779	大河原明德	神奈川県川崎市生田1776 (044)91-3554	日本郵船KK海務部労務一課	江の島	CYGNUS
7780	友田勝敏	東京都港区赤坂8-3-2 鈴木万平方	NETテレビ業務部(403)3111	油壺	八 丈
7781	尾俣健一	" 新宿区淀橋643 (372)2044	尾俣木材KK(342)3601	"	MISS SUN BIRD
7782	西尾碩人	" 世田谷区豪徳寺2-27-15(428)5930	東京医科大学X射線科	小網代	竜 王 丸
7783	岡 武人	神奈川県逗子市逗子7-12-22	慶応義塾大学(在学)	"	飛 車 角
7784	鳥飼俊宏	" 横浜市中区海岸通り 公団住宅8-408	日本住宅公団関東支所	"	も さ Ⅲ
7785	安岡忠義	" 藤沢市江の島200-3(0466)22-4766	西三田工事事務所 (株)共栄社工務部 (045)68-0641	"	さ が み Ⅱ
7787	福島巍也	東京都杉並区下井草2-24-16 榎本方 ⁽³⁹⁰⁾ 5882	早稲田大学理工学部(在学)	"	飛 車 角
7788	小山順子	神奈川県横浜市金沢区西柴96	チエースマンハツタン銀行 (0468)22-5160	油壺	MIGRATOR
7789	W.F.PERKINS	横須賀市横須賀米海軍基地	U.S.N.	横須賀	SEAWITCH
7790	R.M.SCHINNELL	" " "	"	"	"
7793	中川隆之	東京都杉並区大宮前6-448(391)3492	学習院大学(在学)	油壺	神 州
7797	若林延秀	神奈川県横浜市港北区菊名町620(045)40-2483	日本計算器販売KK(292)1611	小網代	NADJA Ⅱ
7800	北村純一	" 横須賀市東浦賀1-43	パプコック日立KK横浜工場	油壺	応 竜
7801	伊藤誠	東京都新宿区戸山町1 国立聴力言語障害センター官舎 (202)7963	相馬通信機KK(983)5181	小網代	利 根
7802	田代一宏	神奈川県横浜市南区唐沢45 (045)64-5593	島喜商店 (668)7181	"	"
7803	小林一行	東京都墨田区向島5-46-1 (623)4541	日本ナショナル金銭登録機KK (582)6111	"	"
7804	鈴木知二	神奈川県横浜市港北区綱島町660松下通信才5社宅		"	KELONIA
7806	池田育生	" " 磯子区杉田町1117 (045)75-5350	山一証券KK横浜支店 (045)65-1581	江の島	潮
7807	下河辺明	" " 神奈川区白楽109 (045)49-2255	東京工業大学大学院(在学)	小網代	は や と り
7808	大山勝次	" " 神奈川区西寺尾714 日産西寺尾寮 (045)40-0976	日産自動車KK研究所研究室 (0468)61-8211	"	"
7810	小林敏男	東京都中野区中町2-17-11 土屋方(381)0684	千葉大学医学部(在学)	油壺	く ろ し お
7812	伊神武	神奈川県鎌倉市手広1421	東京トヨベツトKK築地営業所	諸磯	SEA CROWN
7814	清水泰治	東京都世田谷区代沢2-24-3	東武鉄道KK事業部	油壺	稲 竜
	(準会員)				
7749	鈴木厚次	東京都千代田区富士見町2-6 (261)4751	慶応義塾大学(在学)	油壺	DAMO I
7750	緒方信次	" 港区芝白金三光町359 (441)9570	" "	"	"
7751	辰巳重正	" 新宿区西大久保3-33 (363)8811	" "	"	"
7786	高橋太郎	神奈川県南区最戸町501 望月方(045)73-7020	横浜国立大学工学部造船科(在学)	-	-
7798	加藤直	東京都中央区築地6-21 (541)8294	慶応義塾大学(在学)	油壺	DAMO I
7799	足立隆之	" 目黒区南3-6-15 (717)3216	" "	"	KAYSEVEN
7805	大口善太	" 北区西ヶ原4-45-12 (911)4719	立教大学(在学)	諸磯	ROCINANTE Ⅱ
7809	石井雄一	" 足立区東和2-7-16 (605)8880	成蹊大学(在学)距離	"	LOTUS
7813	木元裕俊	" 江東区深川越中島2 東京商船大学々生寮	東京商船大学(在学)	江の島	TAROH

会 員 現 在 数

4 2 . 5 . 3 1 . 現 在

支 部 \ 区 分	特 別	普 通	準	計
関 東	1 1 3	3 5 2	4 3	5 0 8
内 海	3 1	8 7	—	1 1 8
東 海	2 2	6 7	1	9 0
京 都	1 6	2 6	5	4 7
西 内 海	8	1 0	4	2 2
合 計	1 9 0	5 4 2	5 3	7 8 5

☒ 年会費納入についてお願い

N O R C ニュースの刊行が遅くれたこともあり、銀行振込用紙もオーナー各位にしかお送りしませんでした。本年度外洋レース一覧表の注意事項欄に記載されておりますから御照覧の上至急お払込み願います。

特 別 会 員 ~~¥~~6,500 (油壺記念碑基金含み)

普 通 会 員 ~~¥~~3,500 (" ")

準 会 員 ~~¥~~1,500 (" ")

払 込 先

現 金 ~ 東京都港区芝罘平町35 船舶振興ビル6階

社団法人 日本外洋帆走協会

銀行送金 ~ 日本勧業銀行京橋支店 (口座名)

住友銀行 虎の門支店 } 日本外洋帆走協会

☒ 小網代湾内の埋立、防波堤建設工事に伴う船舶の航行注意について

標記の件につきまして今般（6月1日付）横須賀海上保安部長より、昭和42年6月5日から昭和44年6月30日迄（2カ年間）の間埋立及び防波堤の建設工事が実施されるので入出港する船舶は充分注意するよう通知をいただきました。会員各位には工事の標識に注意して艇の安全に一層留意して下さい。

（工事施行計画）

1. 埋立地護岸建設工事～4 2. 6～4 3. 8
2. 防波堤築造工事～4 3. 1 1～4 4. 5
3. 標識設置～昼間、赤旗 夜間、紅灯

◎ 油壺港灯台設置の実現について

昭和39年当協会発足直後より運動をして参りました諸磯灯台建設の件については、その後毎年陳情書を提出、その実現を強力に推進して参りましたが、昨41年10月の航路標識整備促進会に加入して各方面に陳情の結果建設の基本的な問題点の解決を見て、目下細部に亘り海上保安庁灯台部で設計計画中であります。その間数度の現地視察も行なわれました結果建設地については諸磯の海岸で沿岸障害標識（副灯を併置して暗礁を照明）として経費約数百万円を計上することに決定を見ておりますので昭和42年度には完工する予定でありますので御連絡します。

三管本部において検討の結果工事日程については次の通り予定されている。（これは東京港入口に海中灯標の大計画があるのでおくれる由）

調査、設計終了	10月末
工事着手	11月初
灯塔完成	1月末
灯機	12月～1月
灯機取付	2月末

以 上

○ 監督官庁、運輸省、海運局による監査実施される

4 2. 5. 3 1 1 0 0 0より海運局河原、中川官により運輸大臣の主管に属する公益法人の設立および監督に関する規則により実施されたが

協会より飯島、則武、麻里立会して定められる点につき詳細なる質問が行なわれ各法定帳簿の点検あり、その結果本部関東支部については経理関係につき問題点はなかつたが各支部の経理その他について再度4 2. 6. 1 3、1 3 0 0より各支部よりの関係者の出席を求め帳簿その他の監査

を行うことに決定され飯島専務より各支部（除広島）に連絡された。

その結果により海運局より指示その他が通達される予定であります。

なお、業務監査は2年目毎に施行され、今回は才2回目に当ります。

第17回大島レース報告書

レース帆走委員長 安 岡 信 一

大島レースも初まつて本年度17回となりました。17年の間にはNORCも色々の事があつたと思います。今回のレースは出艇申込みが33隻ありNORCも大きく発展したものだと思つた感じが強く受けました。私達委員は26日15.00にヨツテル内へ本部を設置し20.00より21.00まで出艇申告の受付をし21.15より艇長会議を行いました。艇長会議に計りスタート時より本部を小網代の丸八旅館にうつす事に致し、其の他帆走指示書の事項を再確認して艇長会議を終り、各艇長は明日のスタートにそなえてそれぞれ引上げて行きました。27日08.00薄曇り北東の弱い風を利用して、スタート、スタート直後各艇は色取りどりのスピンを上げ一路初島をめざしますがミス。サンバードはスピンを張つてスタートラインを出て行つた為かスタートがおくれ艇長の大きな声の号令が我々コミッテイボートまで聞えました。スタート後三浦半島側に北上する強潮が（さがみⅡ調べ水温2.05度船位が1時間に1海里の横流れあり）みとめられた初島に近ずき風が落ちると大型艇は進路方向に艇をむけられず苦勞する。真鶴半島にとつき潮の影響をさけるつもりで艇があつたが初島に直接にむかつた艇が潮流の変つた為か初島をすんなり廻り、真鶴にくつついた艇はおくれてしまふ。初島通過時刻はサンバードをのぞいて約1時間位の間全艇通過、波浮を直線で向う艇川奈に向う艇各艇長の考へている方向に向う直線で大島に向つた艇は逆潮にもかかわらず北東の風が吹き出した為川奈に向つた艇とは同じ所要時間で大島に着いた。相変わらず大島西側には強い海流がありシャーク十世の航跡図によると大島渡りで4.1ノットのスピードで1時間に約1.5海里の横流れがあつた（水温2.15度さがみⅡ調べ）大島の東側には海流ははいつていながつたが（水温1.8度さがみⅡ調べ）2.3.30頃波浮沖で小さな前線が通過し約1.5mの風が吹き波が悪かつた。各艇大島通過後三崎に向う0.5.00頃小網代港口にミス。サンバードの勇姿があらわれるが港内で風が落ちる為、シヨートタツクでフィニッシュする。052725、続いて1時間後、潮風Ⅲ、K-7と入つて来るがK-7の後に小型艇がついて来る。もさⅢだ、今回は風が弱く小型艇が有利ではあつたが堂々と大型艇の中にまじつ

でのフィニッシュは立波でやはり乗手がそろっている為でしょう。初島から大島までは大型艇、小型艇があまり差が付けず大島から小網代までの上りが勝負であつた。大島では好位置にいたシレナがヨールの為、のぼりがよくなくフィニッシュでは14位であつた。其の他大型ヨールのK-7をのぞきヨールの艇はのぼりがよくない為大島より三崎までの間が成績が悪かつた。08.30に保安部より電話連絡があり07.45現在城ヶ島方位200度沖合12.5マイルに最終艇と見られるオリンパスIIを確認したと連絡あり、其のオリンパスIIも12.35.58秒にフィニッシュするが飛車角が帰つて来ない、日曜日の為油壺より出た船が多い為飛車角の帆影が判らない。13.00になり飛車角発見13.16.05にフィニッシュ早速出艇全艇フィニッシュを保安部に連絡し全員本部に引上げる。

以上簡単な報告ですが最後に此の紙面を借りまして三管本部と各保安部の皆様に御礼申し上げます。

4 2 . 5 . 3 0

(昭和42.5.27~28)

第17回大島レース成績表

スタートタイム~08:00

レース帆走委員長 安岡 信一

NORC 関東支部

着順	セーラズ	艇名	オーナー	艇長	T.C.F.	初島W		到着時間(F.T.)	所要時間(E.T.)	修正時間(C.T.)	順位	
						竜王崎S	回航時間				クラス	総合
3	323	KAY SEVEN	栗林定友	多門 信	・778	17:35	23:13	06 . 51 . 30	22 . 51 . 30	17 . 47 . 02	II 3	12
12	338	MIGRATOR	M.R.BERKELY	M.R.BERKELY	・807	17:46	23:03	07 . 28 . 50	23 . 28 . 50	18 . 56 . 56	5	20
10	355	LOTUS	小林 亘	関根 久	・793	16:50	23:07	07 . 22 . 05	23 . 22 . 05	18 . 31 . 51	4	18
2	358	潮風 III	竹下政彦	竹下政彦	・784	17:14	23:00	06 . 25 . 22	22 . 25 . 22	17 . 34 . 46	1	10
1	380	MISS SUNBIRD	山崎達光	山崎達光	・828	14:00	21:50	05 . 27 . 25	21 . 27 . 25	17 . 45 . 59	2	11
5	164	さがみ II	飯島元次	飯島元次	・741	17:50	23:51	07 . 04 . 50	23 . 04 . 50	17 . 06 . 10	III 1	5
6	188	CONTESSA II	石原慎太郎	(代)石川昇	・770	18:00	00:00	07 . 08 . 00	23 . 08 . 00	17 . 48 . 46	4	13
8	199	SALMON II	富永 弘	富永 弘	・756	記入なし	23:25	07 . 13 . 55	23 . 13 . 55	17 . 33 . 48	3	9
9	367	TILDE	J.JANSEN	J.JANSEN	・739	18:00	00:00	07 . 20 . 57	23 . 20 . 57	17 . 15 . 18	2	7
14	179	SIRENA	大儀見 薫	大儀見 薫	・712	17:30	23:35	07 . 46 . 57	23 . 46 . 57	16 . 55 . 59	IV 4	4
17	183	CYGNUS	田山英世	島田武夫	・712	18:30	00:50	09 . 25 . 45	25 . 25 . 45	18 . 13 . 58	9	17
13	184	JOVAL FIVE II	小田達雄	小田達雄	・721	18:02	00:15	07 . 44 . 35	23 . 44 . 35	17 . 07 . 07	5	6
16	302	のぶちゃん	安岡 信一	河原昭三	・722	18:30	00:55	09 . 06 . 10	25 . 06 . 10	18 . 07 . 27	7	15
23	312	はやとり	名当英臣	名当英臣	・707	18:30	02:00	12 . 04 . 33	28 . 04 . 33	19 . 50 . 59	12	24
19	315	どんがめ VII	渡辺修治	渡辺修治	・702	18:15	01:00	09 . 56 . 03	25 . 56 . 03	18 . 12 . 21	8	16
11	319	かまくら	中戸将治	中川靖郎	・705	18:10	00:50	07 . 27 . 20	23 . 27 . 20	16 . 32 . 10	3	3
18	332	MUSE	金原良一	金原良一	・706	18:40	01:00	09 . 36 . 55	25 . 36 . 55	18 . 05 . 04	6	14
7	340	SHARK X	森村讓二	森村讓二	・706	17:23	23:55	07 . 08 . 09	23 . 08 . 09	16 . 20 . 02	2	2
27	346	飛車角	名和幸夫	周東英郷	・704	記入なし	03:10	13 . 16 . 05	29 . 16 . 05	20 . 36 . 17	15	27
25	361	AOLELE II	沼口日出士	沼口日出士	・711	18:25	01:30	12 . 28 . 45	28 . 28 . 45	20 . 14 . 55	14	26
4	366	もさ III	守屋克巳	守屋克巳	・710	17:30	23:30	06 . 57 . 15	22 . 57 . 15	16 . 17 . 51	1	1
24	369	潮	豊泉茂樹	豊泉茂樹	・712	18:00	02:00	12 . 20 . 40	28 . 20 . 40	20 . 10 . 52	13	25
20	379	MAMBOW	小林秀一	宮野邦重	・721	18:35	00:45	10 . 52 . 10	26 . 52 . 10	19 . 22 . 22	10	21
21	381	八丈	近藤禎之	近藤禎之	・718	18:13	01:16	11 . 00 . 40	27 . 00 . 40	19 . 23 . 38	11	22
22	321	KELONIA	西村 真	大谷正彦	・677	18:30	02:35	11 . 53 . 52	27 . 53 . 52	18 . 53 . 12	V 2	19
15	322	朝風	朝比奈新	朝比奈新	・700	18:04	00:40	08 . 53 . 20	24 . 53 . 20	17 . 25 . 20	1	8
26	327	OLYMPUS II	落合公平	落合公平	・688	18:28	02:40	12 . 35 . 58	28 . 35 . 58	19 . 40 . 35	3	23
	389	NADJA II	白崎謙太郎		・701					D . N . F		
	305	竜王丸	奥田広男		・748					D . N . S		
	316	神州	石崎卓		・736					"		
	353	SEA CROWN	芦田等		・708					"		
	383	TONGA	R.L.COOPER		・739					"		
	388	稲竜	小沢信三郎		・772					"		
<p>総合優勝: 1位 もさ III 2位 SHARK X 3位 かまくら</p> <p>クラス別入賞: (II) 潮風 III MISS SUN BIRD.</p> <p>(III) さがみ II TILDE</p> <p>(IV) もさ III SHARK X. かまくら. SIRENA</p> <p>(V) 朝風</p> <p>ファーストホーム賞: MISS SUN BIRD</p>												

第 17 回大島レース会計報告

(4 2 . 6 . 6)

レース帆走委員長 安 岡 信 一

収 入 の 部

参加申込料	33隻	33,000-
参加申込遅延料	2 "	4,000-
参加料(会員)	105名	52,500-
" (一般)	20 "	40,000-
計		129,500-

支 出 の 部

レース本部運営費(宿泊費、食費、交通費)	45,240-
オ1回艇長会議借室料	2,100-
コミッティーボート、モーターボート借料	3,000-
発電機借料(ガソリン代込み)	2,960-
諸礼金(M.Y.C.油壺ヨッテル)	5,000-
電話料、心付、(丸八旅館)	3,000-
印刷費(帆走指示書、出艇表)	1,500-
消耗品費(文具)	685-
計	63,485-

差 引 残 額

66,015-

◎ 支部だより (抜萃)

1. 内海支部

去る5月のゴールデンウィークを利用して「内海ランデブー」を5月3日白石島で開催され盛会を極められたとのことです。

2. 東海支部

本年度の役員をご紹介します、

支 部 長	角 田 博	レース委員長	丹 羽 由 昌
安 全 委 員 長	大 橋 郁 夫	計測委員長	水 上 健
海 事 普 及 委 員 長	角 田 博	監 査 委 員	天 野 和 茂
事 務 長	大 橋 郁 夫		
鬼崎フリートキャプテン	天 野 和 茂		
三河湾 " "	大 橋 郁 夫		

以 上

本年度のレース計画は

レース名	開催日	コース	距離	固定点数
四 日 市	4/9	鬼崎～富州原～鬼崎	20 湊	4
熊 野	5/6~7	尾鷲～師崎	60 "	8
鳥 羽	7/23	鬼崎～鳥羽	25 "	5
三 河 湾	8/20	三谷～姫島～猿ヶ島 ～三谷	18 "	4
蒲 郡	9/17	三谷～鬼崎	33 "	6
野 島	10/22	鬼崎～野島～鬼崎	38 "	6

近着のニュースによりますと安全委員会主催の安全演習を鬼崎港で6月17～18日に施行する。尚7月の例会には表彰パーティを開催されとのこと、その節はCHITA II世のもと

らした「才1回八丈島レース」優勝による高松宮賜杯と関谷会長杯が会場の雰囲気をかためることゝ思います。

3. 京 都 支 部

井上支部長のお人柄と後輩御指導の熱意とによつて新規会員と新艇加入が著しくふえて来ました。

新艇紹介しますと

No.712	安 寿 (ANJYU)	S. 梅 原	康
No.713	し ぶ き	Y. 中 谷	修
No.714	TAM-TAM	S. 田 村	正 男

本 年 度 レ ー ス 計 画

レ ー ス 名	開 催 日	コ ー ス	距 離
大 橋 廻 航	5/20~21		12 湊
多 景 島	6/10~11		34 "
竹 生 島	7/1~2		54 "
祇園会クルージング	7/15~17		—
近 江 舞 子	8/26~27		22 湊
沖 の 島	10/7~8		26 "

備考~9/15~17は才12回全日本シーホース級選手権大会開催につき委員

艇として支援するためレースなし

4. 西内海支部

才4回総会にて承認され、誕生いたしました西内海支部も着々と発展の航路を進んでおります。

役員をご紹介しますと（結成当時によるもの）

支部長 田中敬一 安全委員 伊藤武夫
 計測委員 藤沢 洵 レース委員 五反田 譲治
 会計監事 内藤 勲 " 土屋直人
 普及委員 藤井成之 総務委員 大宮秀男
 " 大宮秀男

レース計画は

レース名	開催日	コース	
奥村杯レース	4/2	吾島～宮島	中国、四国ヨット協会主催大会に特別参加
瀬戸内海横断レース	5/28	呉～高松	
前島レース	7/22 ～23	宮島～前島～宮島	
黒神レース	10/1	宮島～黒神島	

西内海支部所属艇のセールスは「800」代を使用することになりました。

編集後記

次号はなるべく早く刊行するようにします。

原稿をお寄せ下さい。（麻里記）